

SS専用

フルーツパウダーの導入進む

4月25日、JA相馬村本所で農業振興課が薬採取機を設置をし、開約受付の準備を整えた。

今年には相馬管内のふじの開花が昨年より3〜5日遅く、5月4日から王林の花粉開約が始まった。今年の花粉開約受付数量は昨年の2倍以上の約7000gとなり、開約施設は薬で埋め尽くされた。開約された花粉は、ほとんどが貯蔵花粉となったことからスピードスプレーヤーを使った交配作業を行う農家が増える予想される。

昨年度より本格的にフルーツパウダー（SS専用人工授粉機）が販売開始となり、花粉100gで1haの交配を約1時間で行うことが可能となり、作業時間の大幅な短縮が期待されている。組合員の方は「SSに取り付ける機械は15万円程かかるが、疲労軽減と作業時間短縮の面を考えると魅力的だ」と話した。

しかし、実際に花粉が付着しているかどうか目視での確認ができない不安があるため、当JA農業振興課は付着調査を行った。

結果から見ると十分な授粉が可能と思われるが、強風時の使用には注意が必要だと考えられ

る。また、SSの風圧により舞い上がった花粉が上空から降りてくることから、上から下に落ちて付着数は減り、全体的に均等の花粉がかかっているとは言えなかった。下枝は、噴口が近く風圧でうまく花粉が行き渡らない可能性がある。フルーツパウダーを使用することによって時間と手間が省けるが、授粉していないリスクを最小限に収めるために、風向き及び風圧、噴口の取付角度を考えSSの速度を落とすなどして、ていねいな散布が必要と考えられる。

また、花粉は購入単価が高いことから、風船状花の採取適期に大量の花粉を確保することが求められます。花蕾をやや早いときに採取すると花弁が硬く薬も未熟であるため、薬の分離がしにくく、遅めに採取した場合は完全に開花し開約してしまつた後なので、使いものになりません。採取する際は十分に生育状況を理解することで作業効率も上がるといえます。農業振興課では、これからも開約と徹底した温度管理による貯蔵に取り組み、りんご農家の手助けをしてまいります。



薬で埋め尽くされた開約所



取り付けも簡単フルーツパウダー